

学生が活きる街、弘前。

～映像制作を学ぶ弘前大学生 高橋咲也氏～

令和3年10月23日(土)、カメラ機材を片手に現れたのは弘前大学人文社会科学部に通う高橋咲也氏。 映像に対する想い、今後の展望、今考えていることを語っていただきました。



彼は、「自分が撮影した映像をみんなで確認する時間が好き」と映像制作の魅力について語る。「すごい」「かっこいい」そんな言葉が映像制作を続ける原動力になっている。

今年一月、彼が所属するスケートボードグループ“ASK film”的インスタグラムに五十嵐氏から写真を撮らせて欲しいとのメッセージが届いた。その撮影依頼を受けた後に、映像制作に興味があると伝えたところ指導してもらえる」となった。それからは、個人で撮影の依頼を受けながら、五十嵐氏の撮影現場にも同行し勉強を続けている。

彼は今年の春から、偶然の出会いをきっかけに、science works. 五十嵐氏の元で映像制作を学び始めた。

トボードグループ“ASK film”的インスタグラムに五十嵐氏から写真を撮らせて欲しいとのメッセージが届いた。その後、映像制作に興味があると伝えたところ指導してもらえる」となった。それからは、個人で撮影の依頼を受けながら、五十嵐氏の撮影現場にも同行し勉強を続けている。

映像制作との出会い

『弘前は楽しいなと思いますよ、弘前でよかつたなって。』

高橋

知らない世界に連れて行ってくれる社会人との出会いは大きいかなと思います。五十嵐さんは、自分が映像制作を仕事にする将来を夢見ちゃうくらいの熱量をもらってると思います。(笑)なんか、本当に面白い人たちといっぱい会えて：本当にラッキーだなと思いますけどね、今自分が置かれている環境は。

佐藤

そう思えるようになつた理由を教えてください！

高橋

僕、後期試験で弘前大学に合格したんですよ。だから、最初は、弘前、鬼来たくなかつたですよ。でも、今は弘前楽しいなと思いますよ、弘前でよかつたなって。

佐藤

弘前、好きですか？

あなたにとって
弘前とは？

公開中の作品と今後について

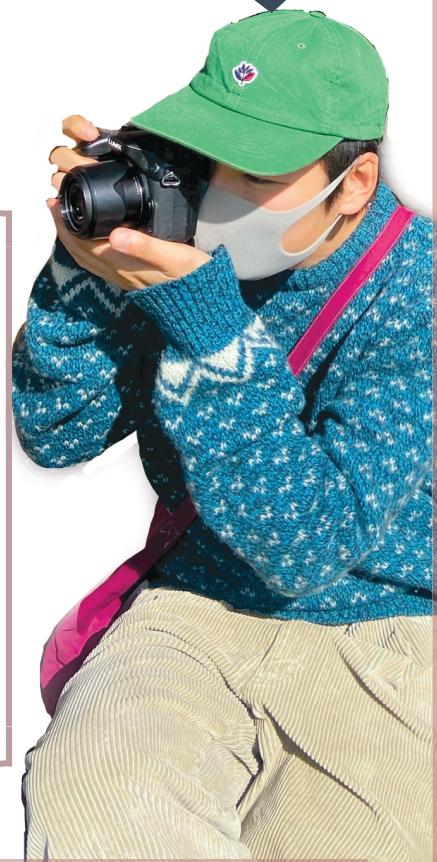
彼は、現在PV動画の撮影などを行なつていて。今年十月二・五日には、新しくスタディカフェっぽんようのPV動画を公開した。今後も映像を通じて繋がりを作り、パフォーマンスや地域のお店のPV動画を作成したいと語っていた。今後も、彼の活躍が楽しみである。

編集後記

学生がやりたいことに打ち込める環境があること、本当に面白い人たちといっぱい会えて：本当にラッキーだと思いますけどね、今自分が置かれている環境は。まるのではないかと考える。

△△公開中の作品△△

- 古着屋THE FICTION PV
- スタディカフェっぽんよう PV
- 津軽三味線とダンスの融合 天仁舞弦 映像制作担当



子ども食堂すこやか
一居場所をつくり続けること

「子ども食堂すこやかプロジェクト」は無料の学習支援と食事提供をおこなっており、「子ども食堂すこやか」の開催数は累計九〇回弱ほどにもなる。四〇～八〇代の八人が中心となり、多くのボランティアの協力により運営されている。県内で二番目に開催された子ども食堂であり、今年で六年目となる。

弘前市内の現状

母子世帯数： 県平均の約6倍
全国平均の約3倍

2021年現在の
子ども食堂数は
11カ所
※活動休止中も含む

小学校数に対する
子ども食堂数の
割合は17.1%

ひとり親世帯に対する子ども食堂数の割合は11.2%（全国平均より高い）
→市中心部に集中しており
遠方からのアクセスが不便

参考

- ・「政府統計の総合窓口(e-Stat)、
　　調査項目を調べる—国勢調査「世帯構造等基本集計」
- ・NPO法人全国子供食堂支援センター
　　むすびえ 弘前市役所ホームページ
- ・平成27年 総務省統計局国勢調査

子ども食堂の 役割とは

事務局長
佐藤まさ



↑子どもたちにお弁当を配布する様子

継続して成長を見守り続ける

現在感じている苦労は、子ども食堂を『継続』することだという。事業継続のために最低限必要なのは『人材・物資・資金・場所』である。またコロナ禍により、開催の可否や感染症対策など、課題が増加した。そして、後継者の育成や活動の発信方法も、地域ボランティア団体の重要な課題であるといふ。

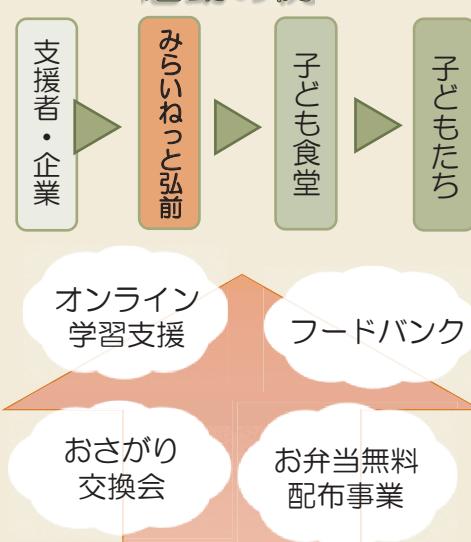
団体では、開催後にミーティングを行い、子どもたちの変化や成長など感じたことを共有し合う。取材当日はお弁当の配布のみだったが、普段の活動には十五名程度の子どもたちが訪れる。「大きなこころで子どもたちと接し、子どもたちの元気な顔を見ることが支えになる」と佐藤さんはいう。訪れた親子と会話し、子どもの成長の喜びを共に感じる様子もみられた。

編集後記

取材を通して、子どもの貧困に対する様々な取り組みがあるということを知り、地域全体での持続的な取り組みが重要であることを実感した。また、調査方法にも事前知識や質問の聞き方への工夫が必要であると感じた。

団体副代表の弘前大学人文社会学部教授の李永俊氏は、「柔軟な対応が可能な民間団体の強みを活かして、家でも学校でもない第三の居場所を地域が一体となってつくり出し、笑顔あふれるまちにしたい」と話す。

活動の例



子どもたちの未来へつなぐ

市内の子ども食堂数の拡大を目指す上で、課題となるのが担い手不足である。現在弘前市にあるNPO法人「みらいねつと弘前」では、子ども食堂などのボランティア団体と支援者をつなぎ、持続的な活動への支援をおこなっている。また、子ども食堂の新規開設者を後押しするために「子どもの居場所作り実践研修会」など、ネットワークの拡大を図る活動もおこなっている。

サタデイ☆くらぶの学習支援

「地域で見守る ひろさきっ子」

「サタデイ☆くらぶ」とは、平成26年から実施されている、ひとり親家庭の子どもを対象とした学習支援ボランティアである。きっかけは札幌市母子寡婦福祉会の「まなとぴあ」であり、弘前大学のteens&lawというサークルの声がけで活動が開始された。また、弘前市との共催により会場はヒロ口で、学生や子どもも安心して参加できる。

活動の目的は、①学習習慣を身につけ学力向上を図る、

②生活の相談を通じ、ひとり親家庭の不安を解消する、③

ワーキングプア、貧困等の負のスパイアルを防ぐ、など様々挙げられる。活動の際には、「机に向かって勉強する」だけの学習支援にはせず、子どももお母さんも楽しみながら何かを得られるように心がけている。実際に参加した子どもからは、「わかりやすく教えてもらえた。参加者同士で遊べたので楽しかった。」という声があった。新型コロナウイルスの影響で、開催できない時期もあったが、感染防止に努めながら活動している。勉強のサポートはもちろん、おしゃべりやカードゲームでの遊びなど、気軽に参加できる内容になつてるので、ぜひ参加してみよう！

サタデイ☆くらぶの効果

- ・勉強が楽しくなる
- ・学校以外で友達ができる
- ・進路や夢が見つかる
- ・「自分」を認めてくれる

⇒子どもの居場所となる



勉強以外ではこんな課外活動も…

- ・知育ゲーム
- ・クリスマス会
- ・すてきママ講座
- ・親子で学ぶ社会のしくみ
- ・工作教室
- ・お花見会

「すべてが学び」の姿勢で活動しています！

サタデイ☆くらぶ

開催日:毎週土曜日

午前9時半～11時半

会場:ヒロ口3階 多世代交流室

持ち物:勉強道具、筆記用具など

対象:弘前市および近郊在住のひとり親家庭の小中学生

主催者

弘前母子寡婦福祉会
(ひろさき
マミースマイル)

取材日

10月27日

編集後記

取材を行うにあたって、我々も学習支援ボランティアに参加させていただいたが、馴染みやすい雰囲気で、緊張することなく参加できた。スタッフである大学生も小中学生の皆さんとの会話が刺激になり、とても充実した時間となつた。

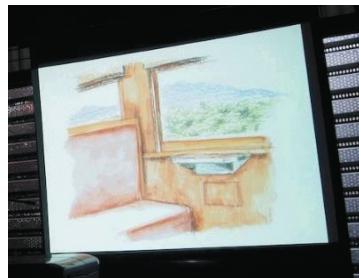
「ひろさきママミースマイル」について

弘前母子寡婦福祉会

ひとりで子育てをし、ひとりで生活を支えているシングルマザーやシングルファザーの家庭の悩みや苦しみを和らげ、互いに助け合い、励まし合いながらひとり親・寡婦の福祉のために活動している団体である。歴史は長く、第二次世界大戦の時より戦争で夫をなくした女性達が自分と子供を守るために「わが幸はわが手で」を合言葉に、立ち上がり全国各地で未亡人会や母子福祉会を発足したのが始まりとされている。そして、現在では全国のほとんどどの地域で母子福祉会から名前を変え、母子寡婦福祉会として運営されており、「ひろさきママミースマイル」もその内の一つとして存在している。その活動は多岐にわたり、今回紹介したサタデイ☆くらぶといった学習支援の他、福祉向上のための活動として、クリスマス会やアロマ講座といった親子でのふれあいの場を作る活動を行ったり、ひとり親家庭に対する相談事業や勉強会を開催したりしている。

平成26年度に行われた青森県ひとり親世帯等実態調査結果によると、ひとり親世帯の約82%の世帯は年収が2000万円未満であり、ひとり親世帯は経済的にも厳しい状況にある。その中で、今回取材させていただいた「ひろさきママミースマイル」代表の引間さんは、子供たちにとつても、お父さんお母さんたちにとっても、「ひろさきママミースマイル」に来たら、「楽しい」、「分かる」、「分かり合える」、「さっぱりする」、「居心地がいい」と思つてもらえる場所であるように、そして「すべてが学び」という基本的姿勢は今後もぶれずに、活動を継続していきたいと述べた。

太宰治ドラマリーディング



実際に団員によつて
描かれた挿絵。

弘前市市民参加型まちづくり1%システム活用事業である「津軽カタリスト」は、団員約四十人、老若男女さまざま人が参加している。津軽地方各地で、津軽ゆかりの文学作品などを、朗読だけでなく、音楽や挿絵にもこだわった「ドラマリーディング」の形で披露している。活動開始から九年を迎える今回の公演では、太宰治の「たずねびと」「雀」「満願」「庭」の四作品と「猿蟹合戦」が披露された。これらの作品について、劇団代表の平田成直さんは、「今回は、夏バージョンで、夏にまつわる作品を選びました」と話していた。

演を鑑賞することができます。

御幸町の太宰治まなびの家にて、アマチユア声優劇団「津軽カタリスト」による太宰治リーディング夏の定期公演が開かれた。また、ユーチューブにてライブ配信も行い、全国から公演を鑑賞することができます。

令和3年8月9日
(月) 青森県弘前市
御幸町の太宰治まなびの家にて、アマチユア声優劇団「津軽カタリスト」による太宰治リーディング夏の定期公演が開かれた。また、ユーチューブにてライブ配信も行い、全国から公演を鑑賞することができます。



朗読する団員のみなさん

今回の公演を身に来た観客の一人は「みんな上手で楽しませていただきました。」と話していた。平田さんは、ドラマリーディングの魅力について、このように語っていた。「ドラマリーディングはお芝居と違つて、芝居が低く、誰でもできることが魅力です。」また全国の方へのメッセージを尋ねたところ、「珍しい活動ではありますが、ドラマリーディングの読書と違い、作品が動き出す感覚を楽しんでほしいです。太宰好きはぜひ。」と笑顔で答えていた。



太宰治まなびの家は、太宰が官立弘前高校へ通うために下宿していた家。ここで聞く太宰作品は他にはない魅力が感じられる。

編集後記

団員一人一人の個性が存分に生かされていて、すぐに物語の世界に引き込まれる公演でした。ぜひ、津軽カタリストのドラマリーディングを弘前市民の方々は、もちろん、全国の方々に聞いてもらいたい。

北山琥太郎

津軽カタリスト

夏の定期公演

主催者
津軽カタリスト

団員の一人である山内省吾さんは今回の公演が初参加でした。

フェイスブックで津軽カタリストの活動を知ったことが参加するきっかけであると話してくださいました。

「自分のファンができること。」と明るく話してました。



優しい声で朗読する
省吾さん

初参加 山内省吾さん

津軽の普段を、ふかぐ、あさぐ

まちあるきツアーアー

10月15日取材

取材先 津軽まちあるき観光推進実行委員会
(公益社団法人弘前観光コンベンション協会内)

前事務局長 坂本 崇 様

津軽まちあるき観光推進実行委員会は、地元のガイドと一緒にまちを歩いて観光できる「まちあるきツアーアー」を取り組んでいる。「ふかぐ、あさぐ」とは、津軽弁で「深く歩く」ということを意味し、従来の観光では行かないような路地裏や小路を歩き、「ディープな所まで楽しむことができる。まちあるきツアーアーの立役者である坂本様にお話をうかがうことができた。

このツアーが始まったきっかけは、観光のニーズの変化や観光客の増加にある。遡ること三十年以上前、バブル期の観光は社員旅行などの団体旅行がメインであった。その後、観光形態の多くは個人旅行に移り変わり、旅行プランをカスタマイズできるようになった。それに伴い、観光客のニーズはガイドブックに載っていない部分も求めるようになってしまった。二〇一〇年には東北新幹線八戸・新青森間開通の効果で、弘前市への観光客が増加し、地元住民の中では仕事の場合間に観光地をガイドする人が出てきた。そういう背景で、従来とは異なるユニークな観光として、「まちあるきツ

アーアー」が始まったのである。城下町である弘前市の複雑な地形ゆえに、歩きでの観光が向いていることも「まちあるき」の理由の一つである。地元ツアーガイドの中でも、特に有名なのは「弘前路地裏探偵団」ではないだろうか。個性的なガイドの案内するツアーアーでは、郷愁を感じるレトロな雰囲気の中を、江戸川乱歩の小説『少年探偵団』に登場する探偵になりきつてまちあるきができる。

地元住民にとつては当たり前のことも、観光客にとつては意外なもの、興味深いものであり、観光資源の可能性がある。観光客が見たいものと、観光ツアーアーがしたいことの乖離を埋めるものこそが「まちあるき」なのである。



【上】津軽まちあるきガイドブック2021表紙



【下】ガイドブック内ツアーワーク

参加者は、特に三十代の女性が多く、スイーツのお店が多いからと考えられる。参加者全体の年齢層は高く、年齢を重ねるごとに、ルーツを辿つて歴史を知ろうとする傾向があるため、それを旅行に求めているのではないかと推測する。

まちあるきの今後の展望は、弘前市にあるものを生かし、その魅力をどのように伝えるかを考え、時代や観光客のニーズに答えていくことである。観光を通して弘前ファンを増やし、気に入つてもらえば移住につながることも期待できる。実際に気に入るかどうかは、あなたが魅力を感じられるようなまちあるきツアーアーに参加して確かめてみてはいかがだろうか。



弘前おもちゃ病院に潜入！！

おもちゃ病院ってなに？

日本おもちゃ病院協会は、おもちゃを原則無料で修理し、新しい生命を与えることに価値を見出し、生きがいを感じているボランティアグループとして1996年に全国組織化した。弘前おもちゃ病院は2008年4月1日設立。

青森県では青森市、五所川原市、つがる市、八戸市、平川市、弘前市、三沢市、むつ市で設立している。

取材した弘前おもちゃ病院では、おもちゃを直す側をドクター、壊れたおもちゃを患者さんと称して活動している。弘前市では27名、青森県では130名がドクターとして活動している。壊れてしまったおもちゃを目の前で修理する形式で、現在はコロナ感染対策を十分に行つたうえで規模を縮小して開催している。

ドクターの方々に聞いた！



目標は「親子でおもちゃドクター！」
おもちゃ病院では、みんなが『おもちゃが直ってほしい』という思いで活動しており
アットホームな雰囲気も感じられる。

成田さん

小山内さんに誘われたのがきっかけ。
プラモデルを作るのが得意で、仕事と
両立してドクターをしている。



猪股さん

趣味が高じてドクターに。
昔の物から今の物まで幅広く直していくと、おもちゃの歴史を感じることができ面白い！なにより、おもちゃが動いたときは最高な気持ち！
技術が形として残ることがとても嬉しい。



あほさん

患者さんにとって愛着のある
おもちゃを直せるのは楽しい。



ヤマさん

※おもちゃ病院では受付をナースと呼んでいます！

ナース募集中!!

自分が最初に始めなければ

2008年に弘前おもちゃ病院を
設立した 小山内 忍さん。



小山内さんが東京に住んでいたとき、当時幼かった娘のおもちゃを、自分一人で直していたが、もっと良い直し方がないかとネットで探していて、おもちゃ病院の存在を知ったそうだ。その後、おもちゃ病院が全国にあることを知り、東京でソフトウェアの仕事をしている時期に、まだおもちゃ病院がなかった青森県で、一番に始めようと考えたそうだ。

東京のおもちゃ病院に参加してみると、ドクターの大半はすでに会社を退職した人だったが、当時30代だった小山内さんを暖かく歓迎してくださったそうだ。おもちゃ病院の中でドクターのみなさんはとても生き生きしている印象があったと語っている。

弘前で始めた最初の頃は、会場を借りるのにも苦労しながら、おもちゃ病院は小さな部屋で家族と共に始まった。

ときが経つと共にコミュニティが広がり、SNS、テレビやラジオへの出演を通してその活動が広まっている。

利用したお客様の声

- ・宝物が宝物のままでいられる。
- ・おもちゃ病院の存在を知ってから、子供のおもちゃへの意識が変わった！
- ・おもちゃが壊れたから捨てるのではなく、あそこに直しに行こう！と思える存在。

編集後記

コロナの影響で満足のいく取材はできなかつたが、おもちゃ病院でしか感じることのできないアットホームな空間は、初めて訪問した場とは思えないほど居心地がよかった。この雰囲気が、おもちゃ病院のコミュニティを拓げる大きな要因かもしれない。

柳田 実海

物の大切さを知り、大人から子供まで交流できる素敵な場所だった。またコロナ前のようにたくさん的人が集まって笑顔になれる場所になることが楽しみだ。

柳田 夢奈

弘前市の忍者屋敷へ潜入！



令和三年九月二十五日土曜日、私たちは弘前市森町にある「弘前忍者屋敷」の見学会に参加した。この屋敷は様々な防衛の仕掛けが施されている甲賀流忍者屋敷である。ここでは、毎週末見学会が行われており、説明を聞きながら屋敷の細部まで見学できる。例えば、敵の侵入に素早く気付くための軋む床（写真左下）や、壁の裏の隠された空間、開かない扉、複数ある隠れ場所など、敵の侵入に備えた仕掛けが数多く存在する。さらに、見学者は棒手裏剣の体験（写真右下）や、忍者服の試着をして楽しむことができる。屋敷内には依然として解明されていない謎も存在するため、訪れる人の好奇心を掻き立てる。

皆さんにはご存じであろうか。弘前大学忍者部の存在を…。忍者部は十人ほどが所属しており、普段は護身術や忍者の知識を学んでいるそうだ。それ以外にも他のサークルと合同して鍋を囲むことなどもあり、活動は比較的自由だそうだ。部員である弘前学院大学の堀野さんは、ウォーキング中に、屋敷を発見し、遊びに来るようになつて入部したという。このように、誰でも気軽に入部できるのも特徴である。取材をした日は、護身術を学び、その後お菓子をつまみながら、おしゃべりをして楽しんでいたようだ。忍者部では様々な知識を得るだけではなく、様々な人と交流を深められるコミュニティとなつている。

→踏むときし
む床



弘前大学忍者部に迫る！



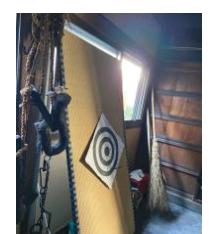
忍者のポーズ
と
佐藤光磨さん

皆さんにはご存じであろうか。弘前大学忍者部の存在を…。忍者部は十人ほどが所属しており、普段は護身術や忍者の知識を学んでいるそうだ。それ以外にも他のサークルと合同して鍋を囲むことなどもあり、活動は比較的自由だそうだ。部員である弘前学院大学の堀野さんは、ウォーキング中に、屋敷を発見し、遊びに来るようになつて入部したという。このように、誰でも気軽に入部できるのも特徴である。取材をした日は、護身術を学び、その後お菓子をつまみながら、おしゃべりをして楽しんでいたようだ。忍者部では様々な知識を得るだけではなく、様々な人と交流を深められるコミュニティとなつている。

今後の活動について

2021年
10月2日発行

佐藤 和佳子
横澤 知奈



↑棒手裏剣の
体験コーナー

編集後記 今回の取材を通して、見学会では多くの知識を得ることができたが、短時間で効率的に質問をし、まとめることが苦戦した。新聞は書きなれないものではあつたが、自分たちが伝えたいことを絞つて書くことができてよかったです。

弘前にアートの裾野を広げたい

～アートワールドひろさきの取り組み～

アートワールドひろさきとは

「弘前のアートをナントカする！」をモットーに、子どもその保護者を対象とした音楽・美術鑑賞会やワークショップを開催し、地域にアートを届けている団体。活動に携わる弘前大学教育学部出佳奈子准教授は、「弘前という都市圏から遠く離れた地域でも、子どもたちが色々なアートを試せて、より質の高い作品を鑑賞できる機会を創りたい」と話す。

子育て+アート+○○

年に数回開催される「poco a poco アートのたまご」のワークショップは、募集開始後数分で予約が埋まるほどの盛況ぶりを見せていく。10月10日・17日に行つた「実験☆ワークショップ」では、子どもたちは理科の実験で金属の性質を学んだあと、金属箔と日本の伝統技法で「宇宙」をテーマに生き生きと筆を走らせた。実験や製作の場面では弘前大学教育学部の教員と学生スタッフが補助指導を行つた。

ワークショップでのスタッフ経験がある弘前大学の学生2名にお話を伺つた。2名ともこの活動を知つたきっかけは出准教授の授業内だという。人文社会科学部2年の学生は、「ワークショップを通して、様々な画材を目にすることができるのは貴重な経験。将来的には企画立案にも関わってみたい。」と話す。教育学部2年の学生は、「子どもたちが楽しんでいるのが伝わってくる。絵には、「子どもたちが楽しんいるのが伝わってくる。絵は、興味を持つきっかけになると思う。」と話す。



「実験☆ワークショップ」の
子どもたちの作品



新たな雰囲気へ ～みんなのコンサート～

2021年
10月22日、28日
取材



「みんなのコンサート」の主な活動目的は、地元の音楽家の活動支援と、世代に関係なく音楽に触れられる場所づくりである。市内で行われるコンサートの観客のほとんどが、ご高齢の方であるのが現状。開催に携わる弘前大学教育学部朝山奈津子講師は、「これからも音楽活動を続けて行くには、もっと幅広い世代がコンサートに来てくれる必要だ」と話す。また、子育て世代から

子どもと一緒に気分転換できる場所が欲しいという声を聞き、子どもも親も、誰でも気軽に本格的なクラシックを楽しめるコンサートを目指している。このコンサートでは、一曲4分を超えないなどの工夫が行われ、さらに子どもが泣いても騒いでいる走り回っても問題はない。座席もピアノを囲むように島状に配置したマット席を用意することで、「子どもと密着できる」「他のお客様に気を遣わなくていい」といった声が参加者から寄せられている。

アートワールドひろさきのこれから

最後に、アートワールドひろさきの展望を伺つた。ワークショップについては、理科と図工の授業を組み合わせた「実験☆ワークショップ」のように、領域横断型のワークショップを開催したいとのことだつた。「それぞれのつながりを発見することで興味を持つてもらえれば」と出准教授は話す。コンサートは、「細く長く続けることが目標。今後は楽器のバリエーションを増やすなどして、色々な音楽の窓口となつてほしい」と朝山講師は継続に意欲を見せる。

また、子ども食堂や学童保育へアウトリーチを行い、アートの裾野をもっと広げることに興味・関心はあるものの、それには相当な覚悟が必要であり、加えてコロナの関係で実現には至っていない、とのことだった。

編集後記

子どもとその保護者が一緒に楽しめる・安らげる場所づくりとアートを組み合わせた活動により、新たな世代にアートに触れてもらうことは、芸術活動の活性化、ひいては芸術と共生するまちづくりに貢献していると思われる。また、我々もこのような活動に参加することで、「協働によるまちづくり」への一步を踏み出せるのではないかだろうか。

今回取材させて いただいた先生方



- ・弘前大学教育学部
朝山奈津子講師
(写真左)
- ・弘前大学教育学部
出佳奈子准教授
(写真右)

ひろやまちづくり

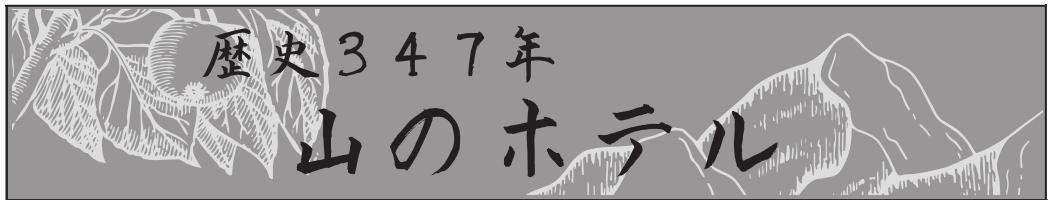
獄新間

津軽国定公園
獄温泉
山のホテル

取材先

令和3年
(二〇二一年)
9月25日
土曜日

山のホテルの
こころから



弘前市岩木地区の獄温泉街にある山のホテルは、古くから地元の人々や観光客から愛される湯治場として知られている。開業から三四七年と歴史は古く、先祖が考案した山菜などの山の幸を用いたマタギ(獵師)飯が人気だ。こうした場所が、コロナ禍で行われたイベントで話題を呼んでいる。

一岩木山に佇む
温泉旅館 |

まちづくりは人からはじまる

山のホテルでは様々なお店が集まる「山ルシェ」や、ドールオーナーのためにために貸し切りのイベントを行うなど、今までの形式にとらわれない企画を実施している。

山のホテル常務、赤石香織氏は、「やると決めたら気が済むまでやる」の精神で、いつも利用してくれるお客様の実際の声を聞いて企画をつくっている。例えば、ドールの撮影イベントは、自由に撮影できる機会が欲しい、というドールオーナーの声から、館内貸切で実施した。イベントの当日は、多くの人が来場し、喜んだ。赤石氏の企画は、いつも共感・反響をよび、山のホテルは常に賑わいを見せている。地域の人のみならず、遠方の方からも温かいメッセージをもらっている。地域を超えた人と人のコミュニケーションが形成されていた。

山のホテルでは様々なお店が集まる「山ルシェ」や、ドールオーナーのためにために貸し切りのイベントを行うなど、今までの形式にとらわれない企画を実施している。



赤石氏は、これからも新たな企画を作っていくと張り切っている。直近では、以前から要望があったペットと一緒に泊まることができる宿泊プランを用意している。さらに、サウナ後に雪に飛び込む「テントサウナ」を実施する。マイナスイメージとなってしまう山の雪の価値を高めていく。「山のホテルは、複数ある獄温泉旅館街の一つ。様々な手段を通じて、獄温泉全体でコロナを乗り越えていけたら」と述べた。経営のためだけではなく、誰かのためにつくる。この先コロナ渦でも、山のホテルから獄全体に人々の賑わいが伝播していくことを祈っている。



ラジオ体操で生活リズム改善



八月二十一日から
十三日の三日間、弘前市御幸町の弘前市立大成小学校にて、ラジオ体操が実施された。記者が参加した二十二日は小雨が降っていたにも関わらず、老若男女問わず、のびのびと体操に取り組んでいた。地域の子どもたちと

体力向上を目的として長らく続いてきたこの活動だが、小学生の夏休み終了間際という珍しいタイミングで開催されている。その理由を企画の一大地区町内連合会担当者の山崎さんに聞いたところ、あ

えて夏休み終了直前と
いうタイミングで開催
することで、子どもたち
に夏休みの間に崩れ
た生活リズムを元に戻
してもらいたいという
狙いがあるとのことだ
った。また、日程を夏
休みの始めに設定して
しまうと、ねぷた制作
の時期と重なり負担が

本活動も例外なく新型コロナウイルスの影響を受けており、感染症対策の為に参加者には間隔を広くとつてラジオ体操させていた。また、感染症が流行する前には、最終日に流しそうめんを実施していたが、最近はできていなそうだ。近頃子どもが流しそうめんを経験することが少なくなっている現在、子どもたちにとって貴重な体験となっていたた

ラジオ体操が終了した後、絵本の読み聞かせが行われた。ラジオ体操の後にどんなことをすればよいか町内会で色々試した所、絵本読み聞かせが一番組み合せが良かつたそうだ。主に低学年の児童が目を輝かせながら話を聞いていた姿が印象的だった。

記者が特に興味を持ったのは、読み手である金子さんの読み聞かせのテクニックである。始めはクイズ形式の本で子どもたちの心

に対話しながら読み進めていった一方で、その後の本では、子どもたちが若干騒ぎ出してきたタイミングで「しつ」と沈黙を促すことで、絵本の世界に引き込んでいた。読み聞かせる本に応じて読み聞かせる手法を変えることでここまで子どもたちを惹きつけているのが、尊敬できる点だつた。

読み聞かせの後、金子さんからも少々お話を聞かせていただいただい

ちの助けになることを望んでいた。また、活動の時間が朝早いため、この活動を通じて金子さん自身も生活リズムを改善できていることを評価していた。

この取材を通して、ラジオ体操や読書など長らく人びとを豊かにしてきた営みを、近代化や感染症流行による生活様式の変容によって忘れられないようする為にも、このような活動を大切にしたいとthought。

みんなでラジオ体操

一大地 區町内連合会

め、実行できない現状を山崎さんももどかしく思っていた。

地域単位でのラジオ体操自体はありふれたものであるが、本活動は弘前という土地柄やそこに住む人びとに寄り添つて、活動の仕組みを調整していた。地域の人びとの為にもこれからも続いて欲しい活動である。



絵本の世界へ案内

た。読む本に関しては、時々子どもが本の内容を知つていて展開を先に言おうとする場合があるため、その時には臨機応変に対応する他、選ぶ段階でもなるべく子どもたちが読んだことがなさそうな本を選んでいるそうだ。活動のやりがいを聞いた所、子どもたちに喜んでもらえることと、本に興味を持つてもらえることだと答えをいただいた。金子さん自身、かつて人間関係に困っていた時に本に助けてもらった経験があ

勇者コーンのナゾトキクエスト

「子供たちの未来に弘南鉄道を」

弘南鉄道の利用促進

このイベントは、弘南鉄道の利用促進を目指し、7月10日～11月1日まで開催されている。弘南鉄道はもともと学生の登下校での利用が多く、様々な人々に愛されてきた。しかし、最近は利用者がどんどん減少し、廃線の危機が迫っている。この問題を解決するべく弘南鉄道活性化支援協議会利用促進部会が企画をATREX、制作を株式会社BOUKEN WORKSに依頼してこのイベントを創作した。ファミリー層、子供層をターゲットにしているこのイベントには多くの家族連れが参加している。8月上旬までの参加者は約700人で特に小学生の親子の参加が多い。



なぜターディーが子供層?

未来を担う子供たちに弘南鉄道の魅力を直に感じてもらい後世にも残していくって欲しいと思いました。また、スマートフォンなどの普及により親子で遊ぶ機会が減っているので、街歩きながら親子の時間と沿線の街並みを楽しんで欲しいという想いなどで設定しました。



主催者 市役所職員の方
信田 洋平さん(右)
今 隆洋さん(左)

弘南鉄道総務部部長
船越 信哉さん (右)
企画者 ATREX代表
畠指 健一さん (左)

近年、沿線地域の少子高齢化と過疎化、さらにはコロナウイルスで、弘南鉄道の存続が危ぶまれています。そこで、この状況を何とか打破したいと思い、弘前を含む5市町村の自治体とその観光や商工関係の団体が構成員となり、地域一丸となつて、利用者を増やす取り組みであるこのイベントを開催しました。

マナーを守って楽しむ!

これはパンフレットに示されているもの。各駅や施設にも消毒液などが設置されているので感染症対策を行なっていることができる。

参加のマナー

- 宝箱や手がかりのそばで大声を出さないでください。
- 宝箱や手がかりの手をメモしたら立て去りましょう。
- 宝箱の蓋は、次の人のために閉めましょう。
- 答えや手がかりの内容をインターネット上に公開しないでください。

新型コロナウイルス感染症対策について

●体温が優れない、または発熱を含む風邪のような症状や体調不良の場合は、参加をお控えください。健康と安全確保を最優先にお考えいただいた上で、参加のご判断をお願いいたします。●感染症の予防のため、イベント参加時のマスクの着用のほか、こまめな手洗い等ご協力をお願いいたします。

冒險する場所 尾上駅

Q このイベントに参加したきっかけはなんですか？

A 駅で偶然パンフレットを見て見た目に惹かれ参加しました。

Q 何か発見はありましたか？

A 普段は全く訪れない場所に来れる機会になり、尾上の盛美園周辺の自然の豊かさや黒石のこみせ通りの風情などを見つけることができました。

勇者のラッセール・コーン君

黒石駅

尾上駅

編集後記

70年以上も沿線地域で愛されてきた弘南鉄道を廃線にしたくないという強い思いにとどめ心を動かされた。これからもこのような活動に注目していきたい。



弘前市から参加のMさん親子

A 思ったよりも頭を使う問題が多く、親子でとても楽しむことができました。またこのようなイベントがあれば参加したいです。

Q 感想を教えてください！

A 駅で偶然パンフレットを見た目に惹かれ参加しました。

Q このイベントに参加したきっかけはなんですか？

A 駅で偶然パンフレットを見て見た目に惹かれ参加しました。